

Platform

ナイト
エスケープ

夜の幕、
仮想の中の冒険

station

- VRChat : ホピー横丁
- cluster : Dream At Summer Night
- Resonite : Default Home
- Real.W : 吉祥寺周辺

Platform contents

Vol.9

Gravure: 4Room	
Gas Station	
Japanese night street	
Liminal Ablutions	
Memory 4
ポピー横丁	VRChat 14
Dream At Summer Night	cluster 20
Default Home	Resonite 26
吉祥寺周辺	Real.W 32
あとがき 38

第9号のテーマは「夜」。

皆さまは夜をどのようにお過ごしですか？友達と
あったり、家族と話したり？VRの人々は夜がメイ
ンの時間です。

今日もみんな思い思いの夜を過ごすことでしょう。
そんな夜はいくつもの表情を見せます。

あなたに見える「夜」はどんな色ですか？私たち
の見た「夜」と同じ色でしょうか？

編集長

世界には、色々な町がある。
その町ひとつひとつに、駅がある。

どの町も駅もそれぞれ違っていて、
違った人たちがいて、
そこを訪れた僕たちが抱く思いも、
きっと違うのだろう。
……VRでも、Real Worldでも。

今はまだ離れ離れの「駅」を、「町」を、
あなたへ繋ぐ線路でありたい。

——それが「Platform」



To the next PLATFORM.



深夜、

目が覚めた。

夜
に
誘わ
れだ
て。す。



4room

by dfgHiatus

Gas Station

by New_Project_Final_Final_WLP

ネオンサインが歌っている。



いつ
がも
ソの
り
ン
スタンド。

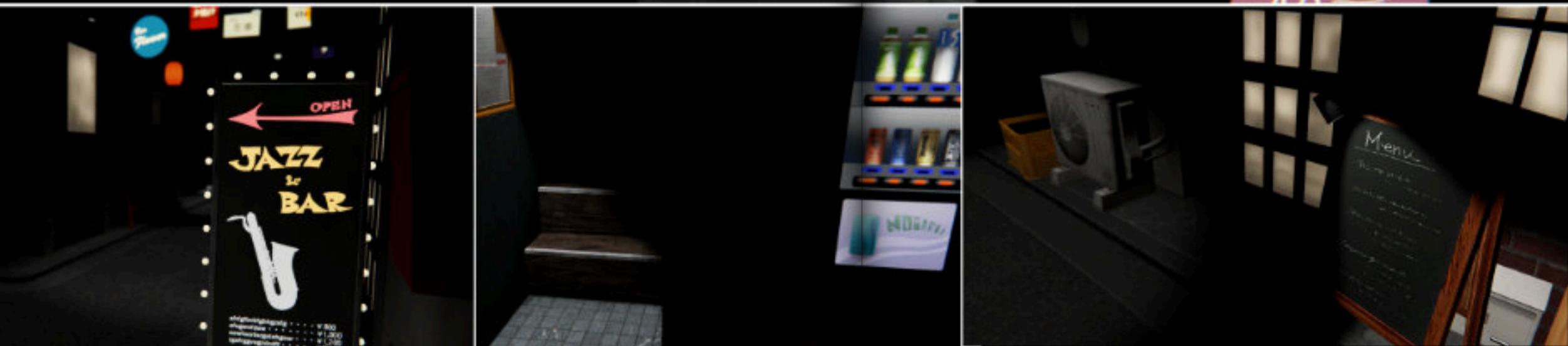
人混
みも眠
つた、

夜の街。

ゴ ル デ ン



Japanese night Street by tanossy

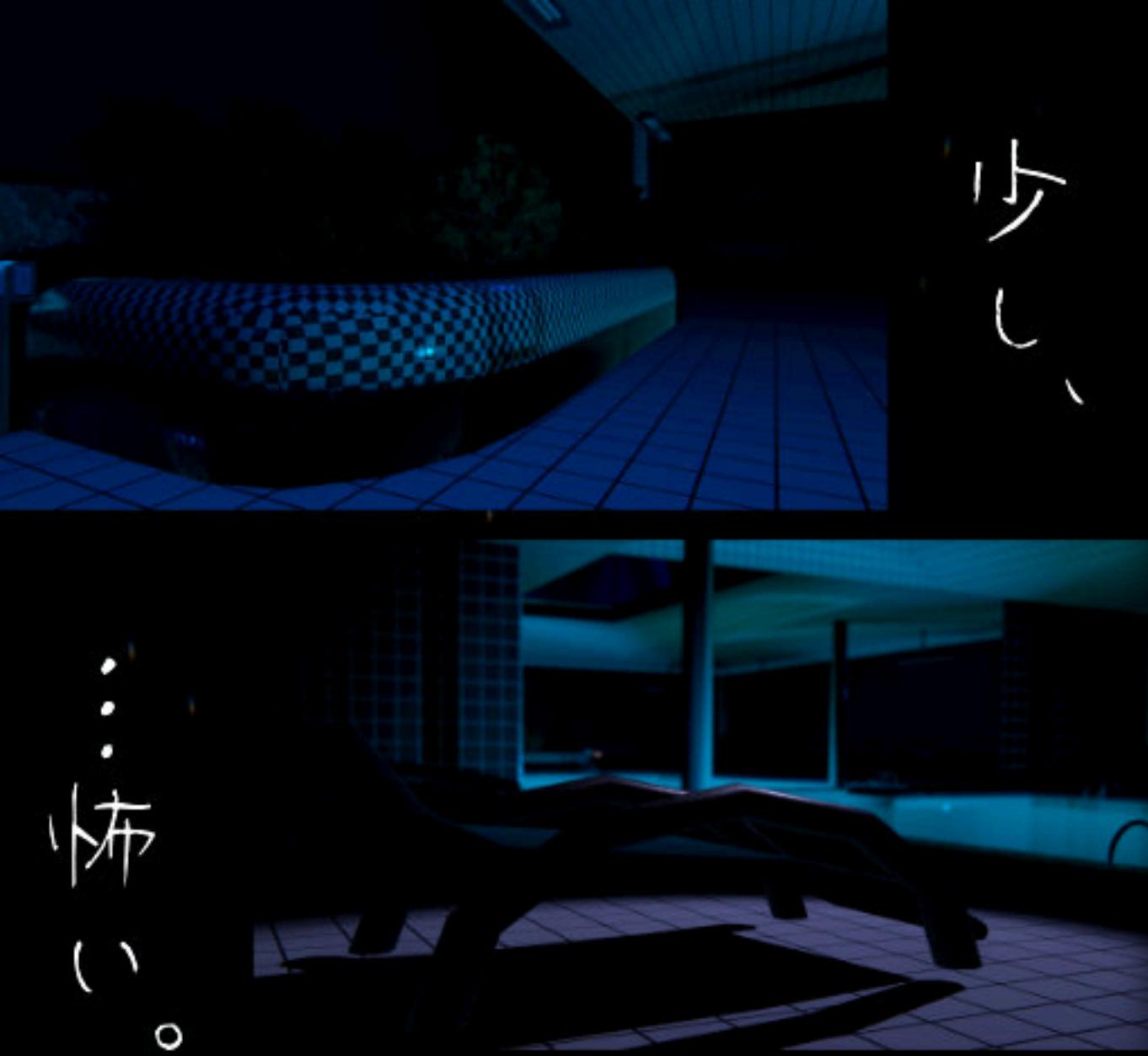


夜のプールは異界じみて、

帰ろう。

怖い。

少し、





おやすみ。おかえり。



ただいま。



写真／Tokikaze

VR世界にある飲み屋の街
ポピー横丁。デスクトップ
で酒を用意するのも良し、
いろんな人と交流するのも
良し。

事や趣味でうまくいかないことが
あった時なんか最悪だ。電球を取
り換えていないせいで輪郭のぼや
けた部屋の片隅に居座って、とり
とめのない情報をブルーライト越
しに貼りつけつつ、頭の中でもや
もやとした考えを煮込んでいくて
しまう。出てくる答えなんて大体
気分の良いものじゃないし、風呂
場の排水溝に一日の疲れと一緒に
洗い流してしまいたくなるような
ものでしかない。こういう状態を
人は「孤独」とでも呼ぶのだろう。
数年前ならこういうもやもやとし
た気分を飲み下すために近所のバ
ーや居酒屋に足を運んでいたもの
だが、流行り病の籠城戦を経て血
氣を失った肝臓は聖職者にでもな
ったのか、私に麦茶や紅茶といっ
た聖水しか恵んではくれなくなっ
た。孤独に閉ざされた懺悔室の窓
は決して開けることは許されない
し、そういうしているうちにバー

のマスターや常連客の顔は記憶に
消えていくブルーライトと共に無
味乾燥な夜を数日超えた後の日曜
15

夜

はいらないことまで色々
と考えてしまうから精神
衛生上よろしくない。仕

「ポピ横とかどうでしょう」
今思えばプラットフォーム編集
部の定例会後に私の口を衝いたこ
の言葉は、もしかするともやもや
と付きまとつ孤独から逃れたいと
願う無意識が発した言葉だったの
かもしれない。他にもいくつかめ
ぼしいワールドを見繕っていたに
もかかわらず、まるでプレゼンで
もするかのようにゴールデン街を
模したあのワールドを薦める私が
いた。「確かに面白そうかも」、
「どんな構図で撮ろうか」、「パ
ブリックに赴くなんて久しぶりか
も」と気が付くと日時を決めてメ
ンバー数人でポピー横丁を訪れる
ことになっていた。取材のための
予定組みというよりは何だか本当
に飲み会の日程決めのようだった。





ポピ横に いる人達

ポピー横丁の中には面白い人や様々な国の人と交流したい人など、いろんな人がいる。



る私も例に漏れず最近はパブリックに足を運ぶことはままないため、幾ばくかの緊張感を抱いている。どんな夜になるんだろうな、なんて考えている内にメンバーの一人がjoinしてきた。そろそろ夜の町に繰り出そうか。

「こんばんはー」「今日はわりと人が少ないかも」「ハハハ、そのアバターどこで見つけたんだよ」「へー、日本語の勉強のために?」「インドの挨拶ってなんだっけ」「すみません、遅れました」「お、お疲れ様です」「スーキやんけ」「多分What kind ofじやな



楽しい人が集まる 居場所

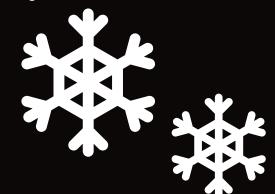
ワールドを回るのも良いけど、夜の
パブリックで色んな人と出会うのが
夜のボビ横の面白さのひとつだ。
お酒とつまみを用意して仮想の中で
人と集まって飲むのも良いだろう。

日、私は定例会用のワールドで一人ビデオプレイヤーでれかすさんの「ポピ横の狂人」を聴いている。あと数分後にポピー横丁を訪れる予定だ。急遽の予定変更で来れなくなつたメンバーや少々遅れる旨の連絡があつたメンバー、行けそうであれば来るというメンバーがいるこの状況もまるで飲み会だ。聖職者の諫言を聴き入れて用意したノンアルコールビールを少し舐めつつ曲に耳を傾ける。そういえばあのワールドでは、大声で奇声を上げて走り回る人や大量のパーティクルを放つ人、ワールドに高負荷をかけて処理落ちさせてくる人を目撃したことがあつた。VRChatに入つてまだ日も浅い頃である。生まれたままの姿で闊歩する某有名VTuberのアバターを目撃したと話すフレンドもいたつな。フレンド数人と路上ライブを集まつて、話しかけてもすぐに逃げてしまふことから所謂妖精さんと呼ばれている日本のユーモア

ストリートシンガー ゆきた ポピ横 路上LIVE

色んな人と交流する場のポピ横。時には路上ライブする人がいる。道のうらで人と囲み、その場でライブを盛り上げる。

周りから雪のパーティ
クルで降らし、
ポピ横の季節は
冬に変わった。



い？」……

路地で数ヵ所バラバラと会話した後、居酒屋の座敷に移って話しているとどうやらバトチャルシンガーの方が「お」としてきたとのことで、今から路上ライブが始まると嬉しい。路地裏に大挙して待ち構えているとスポットライトのような街灯の許へとシンガーの方がやってきた。二日酔いに迎え酒をきめてきたと語る彼女の声はしかし瑞々しく曲を歌い上げていた。数曲歌い上げた彼女への歓声の中に聞き覚えのある声があり、ふと隣を見るとフレンドが座っていた。

「久々ですね」「パブリックにいるなんて珍しい」「たまにはね」

歌を聴きながらぬるくなつたビールを揺らしてみると、もう無くなりそうだな。今日は奇声を上げている人も大量のパーティクルを放つ人も見かけなかつたし、ある意味刺激的なポピー横丁ではなかつたかもしれない。何でもない日常の延長線上の、たわいもないはしご酒だ。とはいえる、幾分かの孤独は飲み下せたようにも感じる。どうでもいいような生活に少しの色彩を添えようと私たちは酒とその

ツマミを求めてここに足を運ぶんだろうな。ポピ横の路地で舞い踊る狂人もきっと。

「結構良い写真が撮れました」「ちょっとこの後別のワールドに移る予定で」「まあまあ良い時間になつてきましたしそろそろ解散にしますか」

HMDを外して空になつたビール缶を片付ける。あと数時間もすれば今週積み残した課題と気疲れするような打ち合わせがバカみたいに詰まつた日常がまた始まる。その中で溜まつた孤独を飲み下すため、きっと私はまた近いうちにビール片手に懺悔室の扉を開いて、ポピ横の路地へ舞い戻る。

(文..ヤマノケ)



ポピー横丁

Created by : Coquelicotz

ACCESS

ホップ・ステップ・ジャンプで

夢☆心地

ここはさわやかな夏の夢の中。

広々とした草原の中で走り回つたり、ピアノの音色で夜の世界に浸つたり。バーチャルで心地よい夢の中の世界で体験してみよう。

心

地よい夢から醒めた時にはいつも、この幸せな浮遊感が永遠に続ければ良いのに、と思う。私は空を飛ぶ夢を見ることが多い。その場合は決まってデジャヴを感じる。多くは、

以前に見た夢と「同じ場所」を散歩しているというのだ。現実世界のストレスで子供心を失いかけた時、決まってそういう夢を見るものだから、感覚的に「夢の世界は実在する」と思わずにはいられない。夢占い的には、空を飛ぶ夢は「高みを目指したい思い、束縛から自由になりたい願望」と解釈されるらしい。仮にそうだったとしても、そんなネガティブな真実からは目を背け、心地よい浮遊感だけを嗜み締めたいのだ。

このような心地よい浮遊感を如実に表現したワールドがclusterにある。ワール

ド名は”Dream At Summer Night”、夏の日の爽やかな夢の中をイメージしたらしい。ワールドのスポーツ地点はベッドの上であるが、これは「夢から醒めかけている」という暗示らしい。

このワールドには神秘的な建造物が点在しており、美しい夜空から絶えず流れ星が降り注ぐ。螢のよう現れては消える光の粒子はあらゆる色に移り変わり、手を伸ばせば届きそな程に、星雲や銀河が鮮明に見える。草が穏やかに揺れる地面は起伏に富んでおり、天体観測として絶好のスポットを探して走り回るだけでも楽しくなるだろう。中央には湖があり、陸地から桟橋で繋がった湖上のパゴラドームには、意味深にもピアノが設置されている。

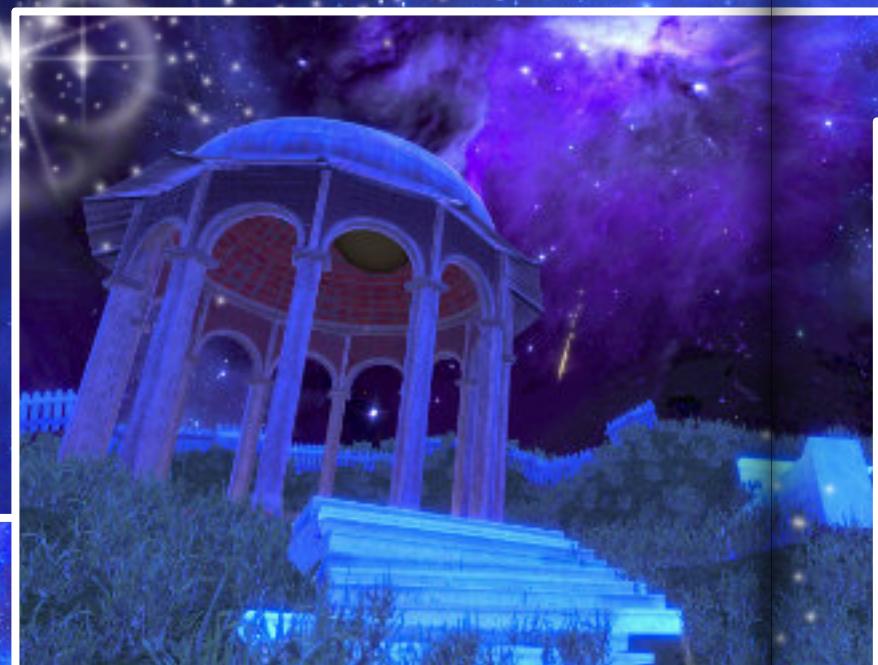
cluster

DREAM AT
SUMMER NIGHT
Created by hk

写真／一兎

20

心地よい世界



さて、実は今回の記事の執筆にあたって、この”Dream At Summer Night”ワールド制作者の h_k 氏がインタビューに応じてくださった。彼女は数多くの美しいワールドを手掛けており、その幻想的で繊細なギミック、演出の数々から、アイドルや音楽のライブのステージ制作担当としても引っ張りだこだ。私も音楽ライブ中に即興小説を執筆し、歌手がそれを朗読するという仕事のために、h_k 氏と共にライブの裏方を務めたことがあったが小説を書きながら彼女が生み出す繊細なパーティクル（VR のライブでよく使われる、光など）のエフェクト」の数々に見惚れてしまつたものだ。

「チキンASMR」の作者、ほびわん氏が制作したらしい。当時のclusterは乗り物系のギミックがなく、故に高い技術力を持ったクリエイターによる作品はさぞ有難がられたであろうが、それがあの「チキンASMR」の作者だと知った時は、色々な意味で動搖を隠せない。

余談だが、この乗り物はPlatform vol.3で紹介したワールド、もともとclusterでカオスと言われているあのこの状態で起伏に富んだ陸地を行き交えれば、夜空に向かって飛び出すように、あるいは自らが流れ星となつたように、ワールド中を飛び回ることができるだろう。私は現実世界でも、微かな街灯を頼りに歩いたり、自転車で走ったりするのが好きだ。何も昼間だけが人類の知る世界ではないと思い出し、その非日常さに高揚感を覚える。このワールドでも乗り物に乗って疾走する私は、それこそ空を飛ぶ夢を見ているように、幸せな気分になった。

そして何より、水色の宝石でできたような乗り物。羽、あるいは飛行機を模しているようだ。これに乗つて、乗り物の正面にあるオブジェクトを握りっぱなし（デスクトップやスマホならドラッグ）にすると、乗り物は少しだけ地面から浮いた高さを維持したまま疾走することができる。

夢の中に広がる



ワールドクリエイター hk

長らくClusterでワールドを制作しているクリエイター。人気のある作品が多数あり、高く支持されている。

主なワールド

- ・旅館 雲海の湯
- ・Dream At Summer Night
- ・語部居酒屋「夢食感」

★乗り物に乗って魔法の本を集めよう



ワールド内に40個あるテントの中に魔法の本が現れ、それを全部集めよう。



クリスタルのような乗り物。近くにあるスイッチを押すとゲームが始まる。

Dream At Summer Night Created by hk

テントの中にある魔法の本を集めるゲームワールド。景観も良し。

ACCESS

(文..sun)

ツクマーカ数)が2番目に多い事実が、cluster民からの人気度合いを物語っている。

最後に、このゲームワールドのルールを説明して締め括る。滑空する乗り物がある付近でスタートスイッチに触ると、40個あるテントの中に魔法の本が現れる。全て集めると、輝く湖面に夏を彩る変化が生じるのだが……それは是非、読者自身の目で確かめて欲しい。

hk氏はこのワールドについて詳しく話してくださいましたが、ここはcluster内で行われた短時間でゲームを制作するイベント(ClusterGAMEJAM 2021 in SUMMER)の応募作として作られたのだという。2021年8月13日(金)22時、つまり同年8月15日(日)22時、つまり僅か72時間内でテーマに沿ったゲームワールドを制作するコンセント。発表さ

れたテーマは、「ホップ・ステップ・ジャンプ」だった。

なるほど、起伏に富んだ地形を乗り物で疾走するのは、たしかに「ホップ・ステップ・ジャンプ」である。hk氏にとっては珍しいゲームワールドとのことだが、やはりどのようなワールドを制作しても、hk氏の美的センスが光る。実際に

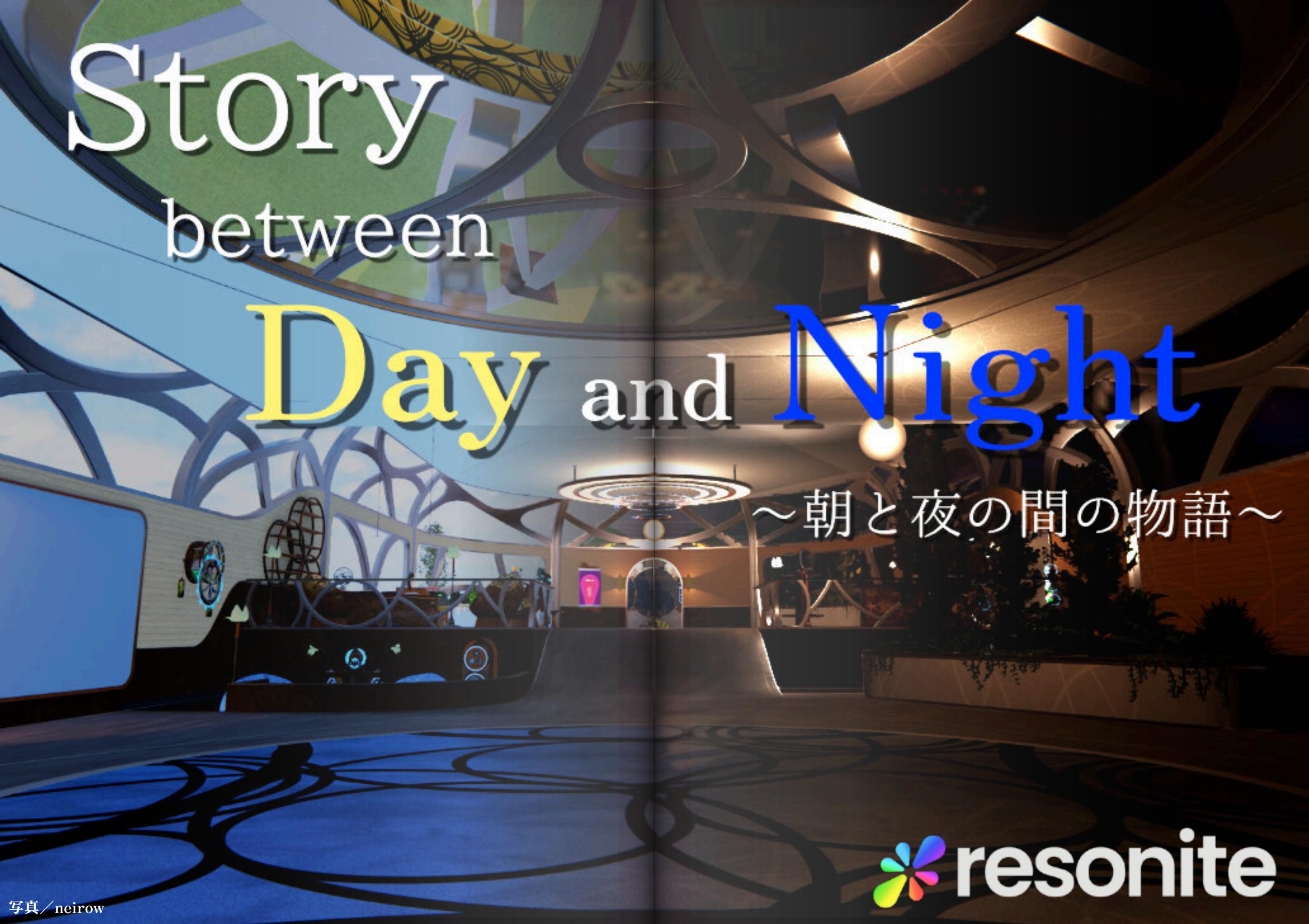
「星降る魔法の夜賞(ビジュアル部門)」に受賞している。

その幻想的な光景は非常に人気で、弾き語りイベントの会場などに使われた実績もある程だ。単純に、友人と共に丘の上で座るだけでも、夜空を見上げながらゆったりと会話できる。hk氏が制作した数あるワールドの中でも、いいね数(ブ

このワールドでは美しい景観を眺めて楽しむだけではなく、乗り物に乗つてワールドを回つてみたり、ゲームで遊ぶことも楽しめます。

ゲームで遊ぶのも、景観を楽しむのも、





Story between **Day** and **Night**

～朝と夜の間の物語～

 resonite

仮想世界に来ると、つい「夜」を求めてしまう。静かな星空のワールドや、薄暗いバーなどに足が向く。夜鷹の性分もあれど、やはりそれは「もう休んでいいよ」と静かに囁くような夜闇の雰囲気。私が心惹かれるからだろう。一方で休日の朝などは、不思議と陽射しがきらめく美しいワールドの空気を吸いたくなる。一日が動き出すために必要な、朝食や紅茶では取れない何かを体が求めているのだろう。

私たちはそんな風に朝と夜の、動と静の循環の中に生きている。いまやあらゆるモノが存在する仮想世界だが、そこに足りないものがあるとすれば、そういう朝と夜の間にあるもの……動が静に、静が動に移り変わる「変化」ではないかな、と思う。朝のワールドにはいつも変わらぬ朝日が輝き、夜のワールドにはいつまでも星が瞬く。それは完成され、静止した創作物であるワールドの必然だ。

けれど、先日陽が昇るように現れた新たなメタバース『Resonite』で、私はまさしく目が覚めるような体験をした。

Resoniteにログインして初めて訪れるワールド「Default Home」。空に浮かぶこの館には、このメタバースを象徴する様々なギミックが用意されている。その中で私が最も衝撃を受けたアイテムこそが「Sun Gun」、太陽を操ることができるツールだった。銃のような奇妙な形のそれを手に取る。空に向けて一振りすると、不意に、今燐々と輝く太陽がすっと傾き始める。まるで旗を引き下ろすように太陽が沈んでいくにつれ、にわかに影が伸び、やがて鮮やかな夕日が世界を染め……そして夜が来る。創られた、静止した世界であるはずのメタバース・ワールドに不意に現れた「動」の鮮やかさに、私は思わずあっけにとられ、そして魅せられた。

それこやはあわせResoniteの世界の魅力の象徴だと思う。VRChatにしろclusterにしろ、クリエイターとプレイヤーの関係は一方的だ。ワールドはかくあれかし、と創られたよつにある。けれどResoniteでは違う。Default Homeの手の中の太陽が象徴するように、Resoniteではあらゆるもののが流動的で、変化を許容する。アバターだけでなく、様々なアイテム、そしてワールドすらも、Unityなどのツールなしにその場で改変ができる。例えばスカイボックスを変えて春の真昼の草原を夜の闇に沈めることもできれば、そこに差す月明かりのライトを加えることもできる。テクスチャを差し替え青々とした野を黄金の麦畑にもできれば、その場でオブジェクトを出して大樹を植えたり、パーティクルの雪を降らすことさえできる。それらを制御する法則をプログラムすることも。それは同じく時間や人の手で変わりゆく「動」の現実に似て、けれど神ならぬ身で朝と夜の境界さえも自由に操ることができる。そんな現実よりも遙かに自由な世界がResoniteなのだ。



やうしたResoniteの「動」の面白さを垣間見られるのが「Default Home派生ワールド」だ。Resoniteではプロテクションが付いていないアイテムは保存・編集ができる、Default Homeもまたあらゆるアイテム、そしてワールド自体が素材として利用できる。これを利用した派生ワールドがいくつも創られている。

例えばHuman Avatar Hubは、その名通りアバターワールドだ。Default Homeのアセットを再配置したY字状の構造で、その一翼には50体あまりのアバターが立ち並ぶショールームが、他の一翼にはゴージャスな噴水を囲むホテルのロビーのような豪奢なラウンジが設けられている。内装やテクスチャ、個々の造形はDefault Homeと一日でわかるのに、元の茫茫とした雰囲気が薄れ、居心地の良い空間に生まれ変わっている。



まだRusted Cloud Homeは、構造こそDefault Homeのままだが、戸や窓には鏽びたトタン板が打ち付けられ、床板は古び傷つき、薄暗がりには炎の灯りが揺らめく…それらが相まってポストアポカリプスの空気を醸し出している。まるであれから何百年も過ったようだ…あの瀟洒で光に溢れていたDefault Home…の落差が、そんな感傷的な妄想を搔き立てる。これは時の流れとは無縁のはずの仮想世界だというのに。



Rusted Cloud Home

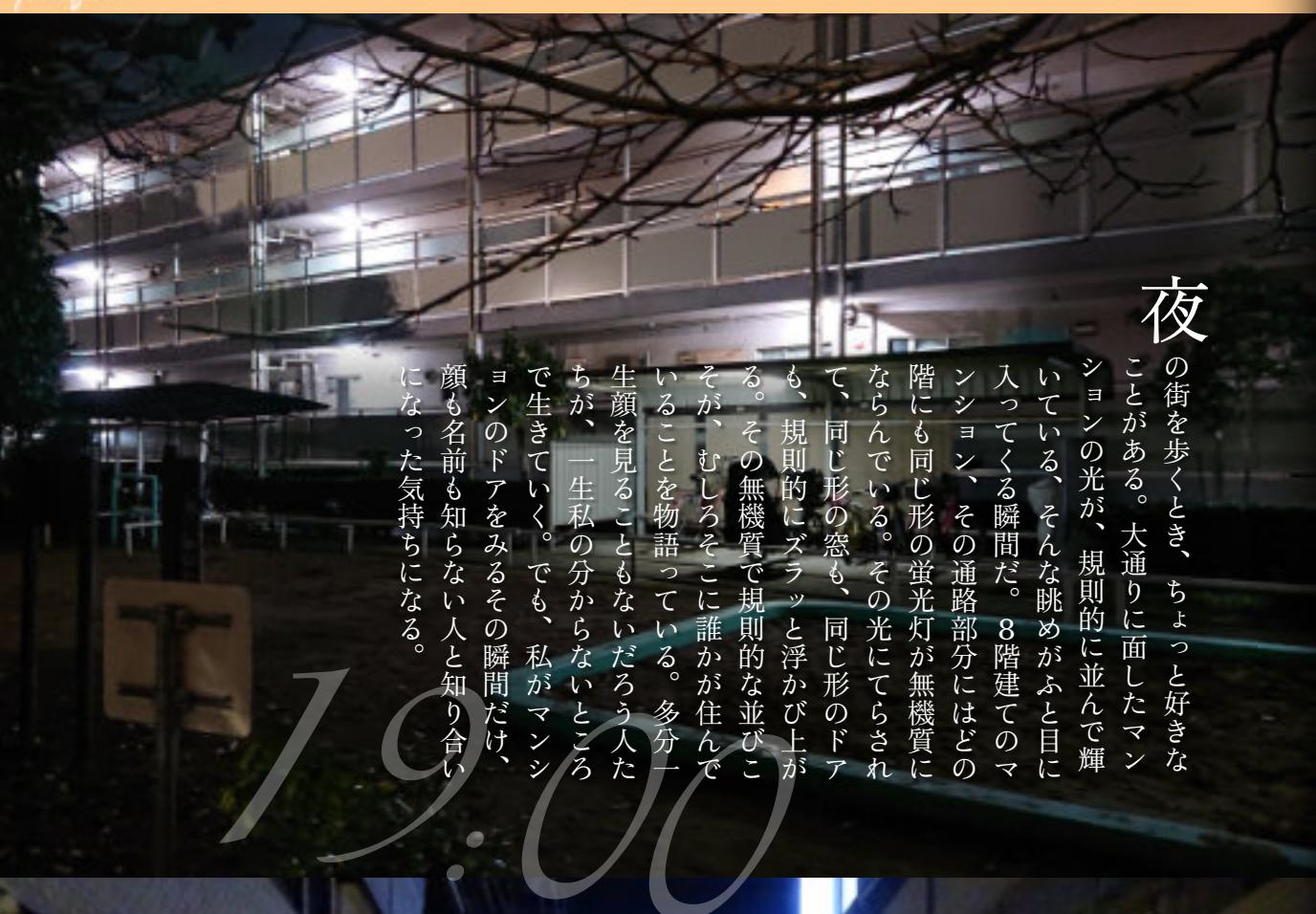
Resoniteではアバター、ワールド、そしてアイテムの全てにいっただけの変化のダイナミズムがある。

無論、VRChat＆clusterに比べれば、Resoniteの人口は少ない。クリエイターコミュニティは小さく、数えきれないほどの美しいワールドもない。一見すれば魅力的とは思えないかもしれない。けれど、Resoniteの真の魅力はそうした創作物としての「静」の中ではなく、巡りゆく太陽が変える世界のような「動」の中にある。朝と夜の間、その変化を起こし、世界や他のユーザと共鳴して一夜の物語を紡ぐのは、他ならぬあなただ。

そんな魅力的な世界への入り口で、この『Default Home』はあなたを待っている。

(文・思惟かね)

To the next PLATFORM.



夜

の街を歩くとき、ちょっと好きなことがある。大通りに面したマンションの光が、規則的に並んで輝いている、そんな眺めがふと目に入つてくる瞬間だ。8階建てのマンション、その通路部分にはどの階にも同じ形の蛍光灯が無機質にならんでいる。その光にてらされ、同じ形の窓も、同じ形のドアも、規則的にズラッと浮かび上がる。その無機質で規則的な並びこそが、むしろそこに誰かが住んでいることを物語っている。多分一生顔を見る事もないだろう人たちが、一生私の分からないとここで生きていく。でも、私がマンションのドアを見るその瞬間だけ、顔も名前も知らない人と知り合いになった気持ちになる。

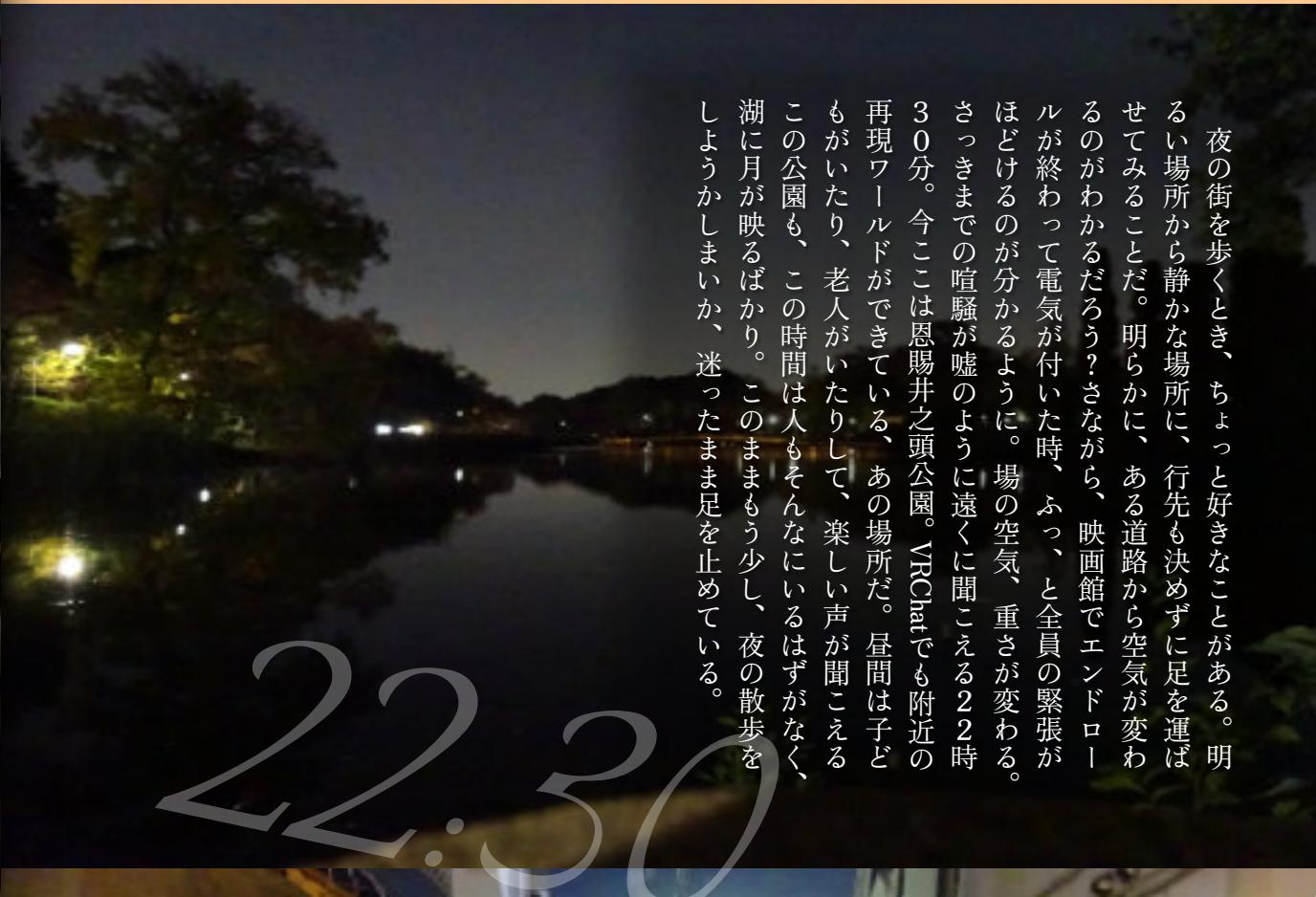
おじさんたちが愚痴を言いながら麦酒を煽っている。 苦い日々の生活も、麦酒の前ではちょっとしたアクセント。口から愚痴を吐き出して、そろそろ胃が受け付けなくなっている揚げ物を代わりに口に入れしていく。 そんな明るい街を通り過ぎる。あまり酒は飲めないし、 好まないから、台湾の有名な店で修行したというふれこみの胡椒餅を買って帰ることにする。これはなかなか美味しい。できれば「肉のサトウ」の牛肉コロッケも買って帰りたいところだが、流石に油が多すぎるだろうか？



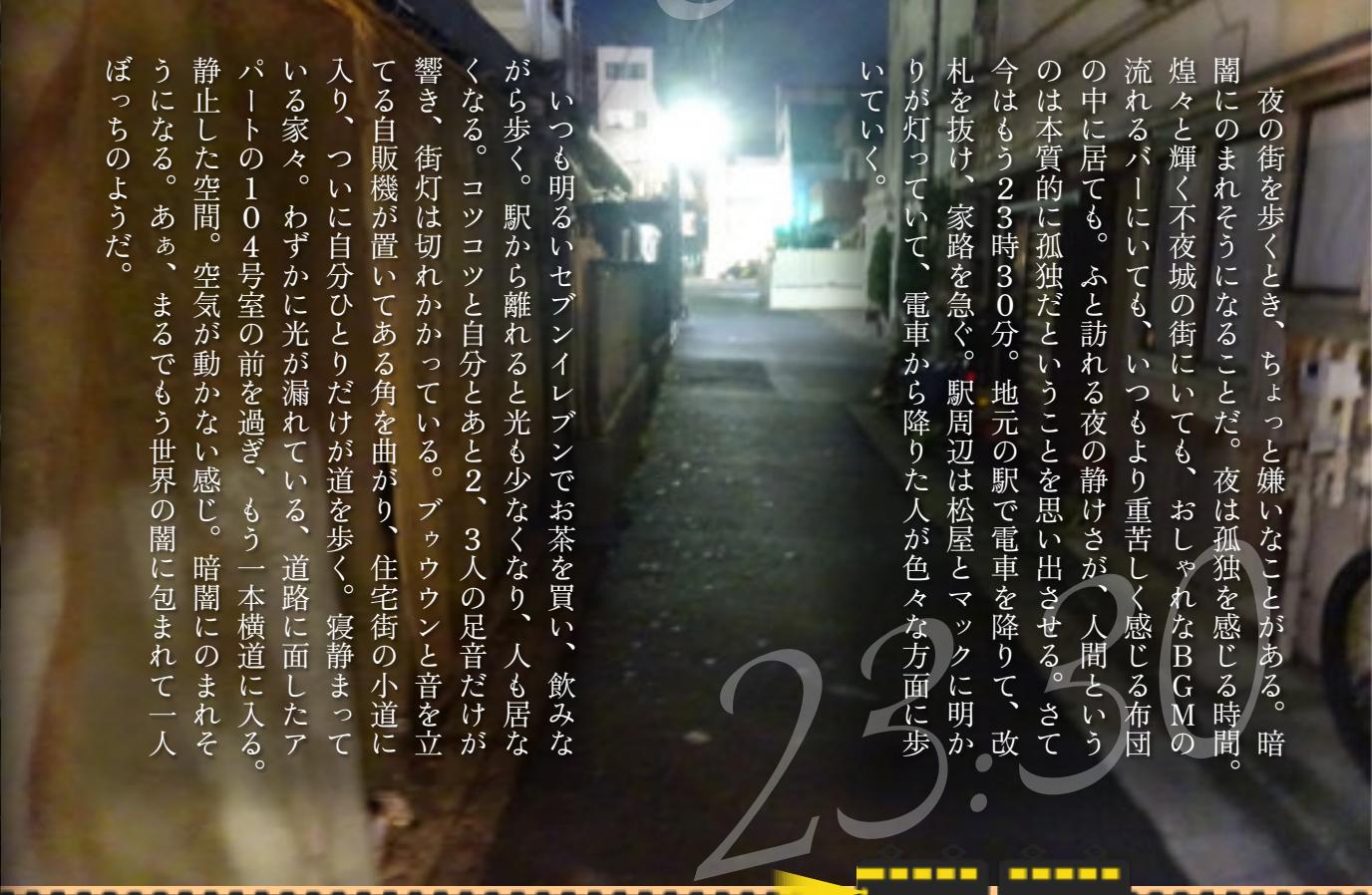
夜の街を歩くとき、ちょっと好きなことがある。たまには明るい場所に行くことだ。どうだ、この吉祥寺という街は。どうやら日本で一番住みたい街だそうだ。20時だつていうのに、高架をくぐればある飲み屋街はにぎわっている。焼き鳥とビールの匂いが漂つてくれる。若いカップルが仲睦まじい様子で歩いている。「酔ってるからさ……」と酒を言い訳に使い、一枚一枚心の壁を突き崩していく。



夜の街を歩くとき



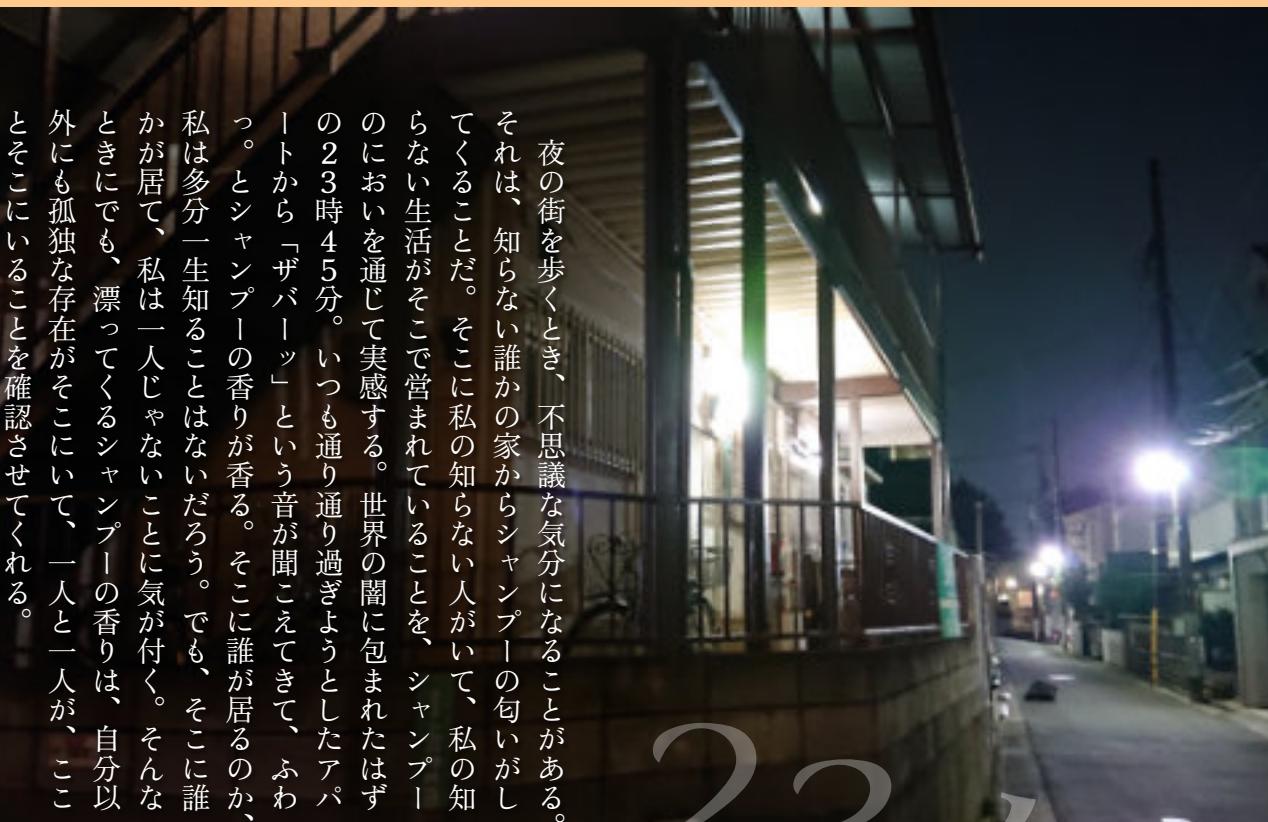
いつも明るいセブンイレブンでお茶を買い、飲みながら歩く。駅から離れると光も少くなり、人も居なくなる。コツコツと自分とあと2、3人の足音だけが響き、街灯は切れかかっている。ブゥウウンと音を立てる自販機が置いてある角を曲がり、住宅街の小道に入り、ついに自分ひとりだけが道を歩く。寂静まっている家々。わずかに光が漏れている、道路に面したアパートの104号室の前を過ぎ、もう一本横道に入る。静止した空間。空気が動かない感じ。暗闇にのまれそうになる。ああ、まるで世界の闇に包まれて一人ぼっちのようだ。



夜の街を歩くとき、ちょっと好きなことがある。明るい場所から静かな場所に、行先も決めずに足を運ばせてみることだ。明らかに、ある道路から空気が変わるのがわかるだろう？さながら、映画館でエンドロールが終わって電気が付いた時、ふっと全員の緊張がほどけるのが分かるように。場の空気、重さが変わる。さっきまでの喧騒が嘘のように遠くに聞こえる22時30分。今ここは恩賜井之頭公園。VRChatでも附近の再現ワールドができる、あの場所だ。昼間は子どもがいたり、老人がいたりして、楽しい声が聞こえるこの公園も、この時間は人もそんなにいるはずがなく、湖に月が映るばかり。このままもう少し、夜の散歩をしようかしまいか、迷ったまま足を止めている。

夜の街を歩くとき、ちょっと嫌いなことがある。暗闇にのまれそうになることだ。夜は孤独を感じる時間。煌々と輝く不夜城の街にいても、おしゃれなBGMの中にも居ても。ふと訪れる夜の静けさが、人間というのは本質的に孤独だということを思い出させる。さて今はもう23時30分。地元の駅で電車を降りて、改札を抜け、家路を急ぐ。駅周辺は松屋とマックに明かりが灯っていて、電車から降りた人が色々な方面に歩いていく。

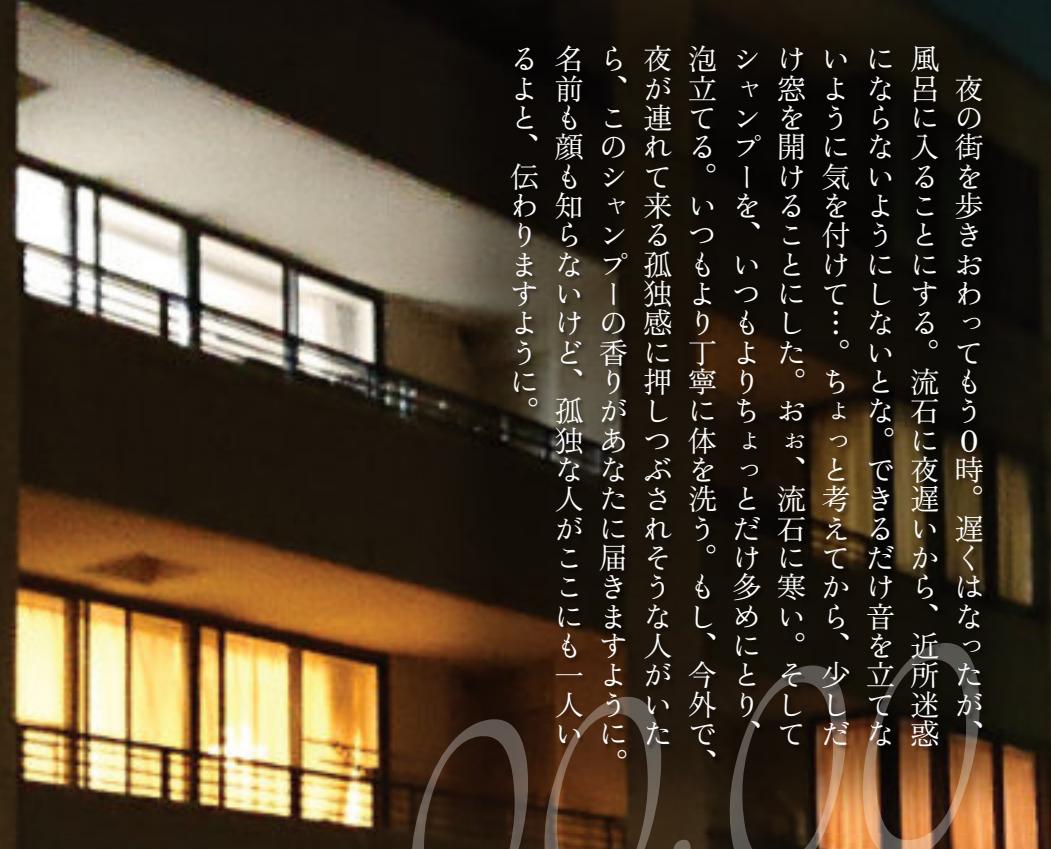
夜の街を歩くとき、不思議な気分になることがある。それは、知らない誰かの家からシャンプーの匂いがしてくることだ。そこに私の知らない人がいて、私の知らない生活がそこで営まれていることを、シャンプーのにおいを通じて実感する。世界の闇に包まれたはずの2時45分。いつも通り通り過ぎようとしたアパートから「ザバーッ」という音が聞こえてきて、ふわっ。とシャンプーの香りが香る。そこに誰が居るのか、私は多分一生知ることはないだろう。でも、そこに誰かが居て、私は一人じゃないことに気が付く。そんなときにでも、漂ってくるシャンプーの香りは、自分以外にも孤独な存在がそこにいて、一人と一人が、こことそこにいることを確認させてくれる。



夜の街を歩くとき、

夜の街を歩きおわつてもう0時。遅くはなったが、風呂に入るこにする。流石に夜遅いから、近所迷惑にならないようにしないとな。できるだけ音を立てないように気を付けて…。ちょっと考えてから、少しだけ窓を開けることにした。おお、流石に寒い。そしてシャンプーを、いつもよりちょっとだけ多めにとり、泡立てる。いつもより丁寧に体を洗う。もし、今外で、夜が連れて来る孤独感に押しつぶされそうな人がいたら、このシャンプーの香りがあなたに届きますように。名前も顔も知らないけど、孤独な人がここにも一人いるよと、伝わりますように。

00:00



朝。明るい世界がやってくる。

朝の街を歩くとき、ちょっとやってみることがある。夜に感じた孤独感を振り払うようにいつもより大股で歩いてやるのだ。

そして夜帰ってきたときには、また思いつきりシャンプーで頭を洗ってやるのだ。

(文..ニッソ編集長)

07:00

To the next Day...and Night



Gravure : 4Room
Gas Station
Japanese night street
Liminal Ablutions
Memory

撮影 : neirow

VR CHAT

ポピー横丁

執筆 : ヤマノケ
撮影 : Tokikaze

cluster

Dream At Summer Night

執筆 : sun
撮影 : 一兎



Default Home

執筆 : 思惟かね
撮影 : neirow



吉祥寺周辺

執筆&撮影 : ニッソちゃん



感想などは
#Platform通信欄
へぜひお寄せください！

station

Vol.9 Platform あとがき



ニッソちゃん
編集長 X

夜はただ暗いだけではないのです。明るい夜もあれば暗い夜もある。その違いは、実際の明るさかその人の心か。さて、夜が明け、そろそろ明るい光が見えてきました。次号は第10号。テーマは「鉄道」。お手持ちの切符をなくさないように。

SUN
ライター X

12/17のリアルブイケット原宿で、Vol.1~5を頒布しましたが大盛況でした。ありがとうございます！多くのお客様から「リアルワールドあるんだ」と感心されたことが嬉しかったです.....!

わく
ライター X

最近、ホワイトノイズを聴きながら夜寝ることにハマっています。すやすや～。

Tokikaze
カメラマン X

誰もいない夜道で立ち止まると謎の虚無感を感じませんか？振り返ったら世界が変わっているかもしれないような気がするあの感覚。不思議ですよね。

一兎
カメラマン X

新米バーチャルフォトグラファー頑張ります:D

思惟かね
編集/デザイン X

深夜にはろ酔いで、誰もいなくなった道路を歩くのが好きです。いつまでも夜が明けないほしいなあ、なんて思いながら。

燕谷古雅
編集/デザイン X

私がメンバー加入してから1年経ちました。新人のカメラマン二人が緊張しているそうで、私も新入りの頃を思い出します。

ヤマノケ
ライター X

夜の山を歩くと「キエ!!」みたいな声出してビビらせてくる鳥が偶にいるけどあれが鶴なんか

neirow
カメラマン X

捕られた家族を解放してもらうために加入了しました。なんでもしますからどうぞ好きに扱ってください。

Nag
校正 X

家にいるナマズやらドジョウやらは夜間になると俄に活動的になります。自分は後景に融け込んで、そんな誰かの時間をうとうと眺めるのが、私にとっての夜な気もします。

STAFF

編集長 | Editor Chief
ニッソちゃん

誌面デザイン | Design
思惟かね
燕谷古雅

校正 | Proofreading
Nag

執筆 | Writer
ヤマノケ
sun
思惟かね
ニッソちゃん

撮影 | Photographer
neirow
Tokikaze
一兎
ニッソちゃん
わく(裏表紙)

Platform Vol.9 【ナイトエスケープ】

発行 : Platform編集部 (platformvirtualreal@gmail.com)

初版 (2023/2/11)

< To the next JOURNEY.

2024. 2. 11

Our
Journey
Continues...

Platform

Vol.9 ナイト
アすけーふ